

テクノス通信

VOL. 32
Jan.2012



「転倒・転落事故の人的対策 ②」

先月に引き続き「転倒・転落事故の人的対策」の①事例報告ルール ②事例分析方法 ③対策実施手順 ④対策実施後のチェックについて、病院様の取り組みをご紹介します！

「実践できる転倒・転落防止ガイド」※より対策のSTEP！

※学研 Nursing mook 2007年6月より



STEP1

活動に必要な要素の決定

- ・転倒・転落対策の専任チームを設け、メンバーを選定し活動目標を設定する。
- ・統計や分析手法などを決定する。

STEP2

事故報告書の適用と現状把握

- ・事故分析を行い、事故の内容を把握する。

STEP3

アセスメントシートの作成と運用

- ・各病院の実情に応じたシートを作成する。

STEP4

対策立案ツールの作成と運用

- ・看護計画書または、対策一覧表を作成する。

転倒・転落専任チームのメリット

- ★部門横断的な幅広い知識と、専門性を得ることができる
- ★熱意・義務・目的などを分かち合え、活動を推進できる
- ★活動を通じて組織全体に意識を広めることが可能である

東京都・H病院様

①事例報告ルール

報告時期：発生から24時間以内

報告方法：手書きレポート

(2012年7月に電子化予定、月間の報告内をPCで閲覧可能)

報告が必要となるレベル：全ての事象(ヒヤリ・ハットを含む)

* 担当者が報告の要否を迷わず、潜在するリスクを抽出するため。

②事例分析方法

医療安全管理者がRCAにより分析を行う。

『RCA-Root cause analysis-分析』

問題解決の中の1つの部類に属し問題の根本的な原因を明らかにすることを狙いとす。根本原因として考えられる事柄全てについて質問と回答を繰り返し、最終的に得た回答を根本原因とし、それに対する対策を導き出す手法。

③対策実施手順

各部署で対策を立案し、関連する委員会に提案後、実施。院内共通の対策は、リスクマネジメント部会で対策を決定、医療安全委員会で報告後、実施。

④対策実施後のチェック：対策実施後の評価方法を検討中。

⑤その他

転倒・転落により発生した合併症を把握し予防するために、合併症に焦点を当てた報告ルール(フォーカスト・オカレンス・レポートシステム)を導入検討。対策の立案には、立場が異なる部署間を医療安全管理者が調整する事で、理解を得ている。

長崎県・N院様

①事例報告ルール

報告時期：発生後すぐ

報告方法：電子カルテ(インシデント報告分析支援システム)

* レポート作成、分析、集計、統計等の管理が容易に行える事がメリット。

報告が必要となるレベル：0レベル

②事例分析方法：医療安全管理者がRCA分析を行う。

③対策実施手順

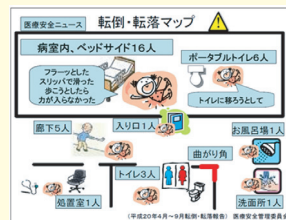
報告を行った部署にて対策を立案し、医療安全管理委員会にて決定後、実施。

④対策実施後のチェック

- ・対策の実施状況を把握し、直接的に現場を支援する目的で院内ラウンドを定期的に実施。
- ・半期ごとにレポートを集計し、分析の上問題点を抽出し改善策を検討。

⑤その他

- ・レポートによる報告後、医療安全管理者が現場を訪問し、状況の確認と情報収集を行っている。
- ・転倒・転落防止に関しDVD放映で説明。
- ・患者、家族に転倒・転落の危険性を注意喚起し理解を得るために、DVD放映と共に「転倒・転落マップ」を作成し、各病棟の廊下に提示。



長崎県・S病院様

①事例報告ルール

報告時期：発生後すぐ

報告方法：電子カルテ

報告が必要となるレベル：0レベル

②事例分析方法

事例内容や部門の取り組み方法によって異なる。

③対策実施手順

実践的な対策は各部署に一任。全体で共有が必要な事項は部門もしくは委員会にて決定後、実施。

④対策実施後のチェック

報告書に実施後の評価日および評価欄が設けてあり、部門の安全担当者が対策実施の結果(評価と課題)などを記録し報告できるようになっている。

⑤その他

・「安全推進を行うための土台は安全教育」との考えから、多岐に渡る研修会を医療安全管理者が企画し実施。

- 新入職員研修とフォローアップ研修 ●中途採用者研修 ●委託職員に対する安全研修
- 合同研修(院内で実施しなければならない必須研修を統合し実施)
- 法人全体で行う安全管理協議会主催の研修 …など

・転倒・転落レポート件数が多い部署を主体に、転倒・転落症例検討会を開く。転倒・転落発生状況を組織で把握し検討する事により、看護部だけでは進められなかった睡眠薬の見直しや物的対策の導入を進めることが可能となった。



対策をより有効なものにするために!

各病院様では人的(ソフト面)対策に加え、物的(ハード面)対策を採用し人的対策を補う事で、対策をより有効なものにする取り組みをされています。

人的対策

- ・組織体制の整備
- ・事故報告と分析
- ・マニュアルの整備
- ・対応策の立案と実施、改善
- ・職員研修
- ・KYT

物的対策

- ・人的対策を補う目的で採用
- ・事故による傷害を抑える対策(衝撃緩和マット・低床ベッド等)
- ・事故の未然防止、早期発見対策(離床センサー等)